

ケータイ・スマホや携帯ゲームでSNSを使うことによって、子どもたちが危険な目に遭う事例は年々増えており、吉岐の子どもたちにとっても、決して遠い世界の話ではありません。

危険な目に遭う第一歩は、家庭でケータイ・スマホを買い与えることや、（親のケータイ・スマホも含めて）ルールなど決めずに自由に使用することから始まります。

大切な子どもたちを、SNS等の加害者・被害者にしないために、この度、吉岐市で取り組む「吉岐ルール」を定めました。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 吉岐ルール 1

ケータイ・スマホを  
持たせません

※吉岐市学校警察連絡協議会でも、中学生は原則所持禁止となっています。家庭の都合等でどうしても持たせなければ困る場合は、子どもにケータイ・スマホを持たせた親として、次のことを必ず実行してください。

- ① フィルタリングを設定する。
- ② 家庭で絶対守るルールを決める。

「ケータイ・スマホは包丁と同じ」  
小さい子どもが包丁を持っていると取り上げますね。ケータイ・スマホは、ある意味、ネットの世界における包丁と同じです。使い方を誤ると大けがをします。しかも、この包丁でできた傷はなかなか治らないのです。このような包丁を、あなたは持たせたままにしますか？



「他の子が持っているから！」  
こういった理由でケータイ・スマホを欲しがる子どもには、危険から自分を守るだけの意志の力がまだついていないことが多いです。

## 吉岐ルール 2

使用のルールを  
守らせます

※どうしてもやむを得ない事情があり、ケータイ・スマホを持たせた場合には、親子で家庭のルールを決めて、必ず守らせるようにしてください。最低限、次の7つは、ルールの中に盛り込むようにしてください。

- ① 利用時間を決めます。例：〇時以降は利用しません。
- ② 利用する場所を決めます。例：自室ではない。
- ③ 自分や友達の情報は書き込まない。
- ④ 人が嫌な気持ちになるような書き込みはしない。
- ⑤ IDやパスワードについては、親が必ず知っておく。
- ⑥ 困ったことや不快なことがあったら、すぐに相談する。
- ⑦ 自分の子どもが加害者になった場合、親が責任を持って謝罪させ、親もいっしょに謝罪する。

「親のケータイ・スマホを使って！」  
親のケータイ・スマホを使ってSNSを使う子どももいます。携帯ゲームを使う子どももいます。この場合も、ルールが必要です。



「いきいき 家庭のルール」  
平成27年度、吉岐市PTA連合会母親部は、「いきいき 家庭のルール」を定め、取組を始めています。このルールには、上記の内容に加えて、家庭での心構え等も含まれています。裏面にも記載していますので、ぜひ参考にしてください。

## 吉岐ルール 3

ルールを守れなければ  
取り上げます

※親と子で決めたルールを守れず、ルールが飾りになっていた場合、その場合は、約束を破ったのですから、親として、ずっと取り上げる（解約する）、あるいは一定期間取り上げるようにしてください。

ルールを守ること、守らなければペナルティが与えられることを教えることは、ケータイ・スマホに限らず、子どもに社会の仕組みを教えることにもつながります。

ある意味、心を鬼にして、ルールを守ることが教えてください。

この「厳しさ」も、子どもを守るため！  
「吉岐ルール1, 2, 3」を見て「厳しい！」と思われるかも知れません。しかし、子どもたちが置かれた現状は、ケータイ・スマホを買い与え、使わせている親自身が、その危険を自覚し、毅然と対応しなければならないくらい差し迫ったものになってきています。大切な子どもたちを、加害者にも被害者にもさせないための本取組に、ご協力をよろしくお願いいたします。

